

学校支援を積極的に進めよう

～家庭・学校・地域で子どもたちを育てよう～

豊橋市立西郷小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は豊橋市の北部にあり、北は吉祥山、東は赤石山系に囲まれ、数多くの動植物が生息する自然豊かな地である。市内でも有数の果樹栽培地域で柿・梨・桃・イチジク等が栽培されている。6月にはホタルが舞い、冬には美しい星空を眺めることができる。

昨年度創立150周年を迎えた本校は、現在全校児童数109名で、各学年1クラスずつの小規模校である。果樹農家が多いので祖父母とともに3世帯で暮らす家庭が多く、学校の教育活動に対して保護者も地域も大変協力的である。学校行事等への積極的な参加やさまざまなボランティア活動に熱心で、物心両面で学校を支えてくださっている。

2 研究のねらい

本校の教育目標は「少人数のよさを生かし、感動する心や自らを律しつつ人を思いやる心、よりよく問題を解決する資質や能力、たくましく生きるための健康や体力をもった個性豊かな子どもの育成」である。その実現に向け、保護者や地域の方々との連携が必要不可欠と考える。そこで保護者・地域の方々に学校との関わりを推進していただくことが重要だと考えた。

3 研究の仮説

P T A活動やさまざまな学校行事を通して保護者が積極的に学校に関わり、参加することで、学校・保護者（家庭）・地域との良好な関係ができ、子どもたちの健やかな成長につながるであろう。

4 研究の方法

P T A理事会を核として三つの部会（保健厚生部・教養研修部・広報部）の活動を精選し、魅力あるP T A活動が展開できるよう学校と共同で行事を進める。

5 研究の実践

（1）小学校・校区合同運動会の実施

小規模校のため以前より校区との合同運動会を春に実施している。運動会の準備や片づけでは、P T Aだけでなく校区の自治会の方たちのお力を借りてテント立てや万国旗張りをしている。最近では熱中症予防のために、子どもたちの控席すべてにテントを張った。P T Aの部会活動としてはP T A競技の「綱引き」の進行や会場警備を保健厚生部が担当したり、景品準備配付を教養研修部がしたりする。3年ぶりの校区合同運動会なので、演目の中で子どもたちやその親が活躍



P T A 競技「綱引き」

すると大きな拍手や応援する声で会場が盛り上がった。3年間のブランクを埋めるために、部会ごとに仕事を綿密に確認・分担し、安心・安全な運動会が開催できるよう計画し、実行できた。また、子どもたちにとっても地域・保護者と一体化した楽しいひとときであった。

(2) 消防団とのプール清掃

例年、体育の水泳授業が始まる前に高学年の児童と地域の消防団の方々、PTA理事の三者でプール清掃を行っている。消防団専用の大きな排水ポンプであつという間にプールの水をくみ上げる様子に子どもたちは驚く。そして残った1年間の汚れを大人の人たちと一緒にデッキブラシなどを使って一斉に掃除をする。暑い中、プールの隅々まで磨き上げるのは大変な作業だ。大人とともに声をかけ合いながら掃除は進んでいく。ようやくきれいになったプールを見た満足げな表情が印象的だ。子どもたちは自分たちが使うプールを、保護者の方や地域の方と清掃することで交流を深めた。



消防団とプール清掃

(3) 資源回収



資源回収の一コマ

保健厚生部では、コロナ禍の感染予防の配慮とPTA委員の減少から資源回収のもち方を変更した。全戸個別回収から人との接触をできるだけ避けることができる各町内のごみステーションを利用した資源回収方式への変換だ。各町の指定された場所に集められた資源を4、5、6年のPTAが最終回収場所へと協力して運ぶ。校区の世帯数の中で小学生をもつ世帯が12%しかいない校区であるが、だからこそ保護者同士の横のつながりを密にし、手早く資源を回収することができていた。

回収量は全戸個別回収より減ってしまっているが、小学生や中学生ボランティアの子どもたちがともに回収活動を手伝うことで地域の一員であるという一体感を感じていた。

6 研究の考察

アフターコロナを踏まえての学校行事とPTA活動の見直し・精選を進めていった。子どもたちの安心・安全を念頭にPTAの協力を得て、さまざまな学校行事が再開できるようになった反面、改善を求める活動も多々あった。PTA理事同士の真摯な話し合いの中で、子どもたちに対する熱い思いを感じることができた。

7 成果と今後の課題

小規模校なので、PTAの力は必要不可欠であると改めて感じた。少子化が進んでいる中でPTAのあるべき姿にも考えさせられた。昨今働く女性の増加に伴い、活動できる時間も制限される。PTA活動もボランティアの一環と考え「できる人ができることをできるときにやる」をモットーにPTA活動を進めていくべきだと感じ、そのための活動内容の見直しが課題である。